

秋大豆の早期水稲中播について (予報)

江藤博六・梅木佳良・梶本 明
(宮崎県総合農業試験場)

ETO, H., UMEKI, Y. and KAZIMOTO, A.
On the Sowing of Autumn-type Soybean within the Standings
of Early season Rice Plant.

早期水稲の収穫は、8月上旬に行なわれるが、そのあと作大豆の播種は、労力競合や天候などの関係で、秋大豆の脇播限界（8月15日頃）内に播けない場合が多いので、播種の省力化が要望されている。そこで、水稲中播に関する研究を1973年以来実施中で、今後さらに検討を必要とする点も多く残されているが、非常に省力的で、収量的にも一応の目安を得たので、1974年度の結果について概要を報告する。

1. 試験方法

試験は、早期水稲トドロキワセ栽培の排水良好な場内水田で行なった。秋大豆ヒュウガを供試し、肥料は金肥のみをa当りN0.3、P₂O₅及びK₂O0.6kgを耕起播は播種前に条施、中播は水稲刈取12日後に全面に施用した。なお、中播は自脱コンバインによる稲刈を想定して、切断わらをa当り40kgを稲収穫後、大豆の上から散布した。

試験区は、稲刈5日前中播区（7月27日）、稲刈当日中播区（8月1日）及び標準区（稲刈12日後耕起条播、

条間50cm）とし、播種量は、a当り0.8、1.2kgの2段階に、中播区は発芽・苗立が悪いため1.6kg区も設けた。

2. 試験結果および考察

調査成績は第1表のとおりで、結果を要約すると次のとおりである。

①中播区は、播種期が早いため、標準区より発芽期、開花期、成熟期が早かった。

②中播区は、覆土がないことや、稲刈時の足による踏みつぶしのため、標準区より苗立歩合が低かった。

③m²当りさや数や子実数は、播種量が多いほど多く、同一本数で比較すると、中播区が標準区より多かった。

④収量も同様に、中播区が標準区より多収であった。中播区では、稲刈当日播区が5日前播区よりやや多収で、いずれも播種量が多いほど多収であった。

今後は、発芽苗立の安定化、播種量、稲立毛間在日数、雑草防除などについて検討の予定である。

第1表 調査成績 (1974年)

区 No.	播種期	播種法	播種量	発芽期	開花期	成熟期	苗立歩合	m ² 当り 個体数	m ² 当り さや数	m ² 当り 子実数	子実 百粒重	a当り 子実重
			kg/a	月 日	月 日	月 日	%	本	莢	粒	g	kg
1	稲刈5日前(7月27日)	散播	0.8	8. 3	9. 2	11.10	52.0	14.5	508	798	25.7	20.5
2	"	"	1.2	"	"	11.11	50.8	24.8	635	950	25.7	24.4
3	"	"	1.6	"	"	11.11	52.4	34.1	880	1079	25.2	27.2
4	稲刈当日(8月1日)	散播	0.8	8. 6	9. 4	11.11	60.3	19.6	474	864	25.8	22.3
5	"	"	1.2	"	"	11.12	60.1	29.3	683	977	25.6	25.0
6	"	"	1.6	"	"	11.12	59.6	38.8	861	1122	25.5	28.6
7	稲刈12日後(8月13日)	条播	0.8	8.19	9.14	11.21	72.2	23.5	484	752	25.4	19.1
8	"	"	1.2	"	"	11.22	71.6	34.9	611	806	25.3	20.4

注) 水稲の落水期：7月25日